

【科目名】 摂食・嚥下障害学概論		【担当教員】 山村千絵	
【授業区分】 専門基礎分野 (リハビリ関連科目)		【授業コード】 2-14-0405-0-3	
【開講時期】 2年次 後期 (P,O,S) 2, 3年次 後期 (RP)		【選択必修】 言語聴覚学専攻 必修 理学療法学専攻 選択 作業療法学専攻 選択 リハビリテーション心理学専攻 選択	
【単位数】 1 単位		【コマ数】 8 コマ	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>言語聴覚学専攻の2年生は必修である。</p> <p>他専攻の学生は選択であるが、摂食嚥下のチーム医療に興味のある学生は聴講を勧める。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>必要に応じて視聴覚教材や模型、臨床で使う器具類を使用しながら、講義を進めていく。効率的な学習が行えるよう、講義室の座席は前の方から詰めて着席すること。</p> <p>どの専攻の学生も、1年次に学んだ解剖学・生理学のうち、特に顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておく、本講義が理解しやすくなる。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) はじめに、摂食嚥下機能ととりわけ関係の深い顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像(病気のしくみ)や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場で摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、STのみならずPT・OT・RP等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。STにあっては3年次以降の摂食嚥下障害学各論および同実習を学ぶためのベースとなる。</p> <p>(方法) 主として教科書と配布プリントを使用して講義を行う。また、必要に応じて視聴覚教材や模型を使用したり、実際に臨床で使う器具類を提示したりしながら、講義を進めていく。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下の機能および障害に関する基本的事項を理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、STあるいはPT・OTとして役割を果たすことができる知識や技能を身につける。 			
<p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。 摂食嚥下機能の検査・診断・評価の概要について説明できる。 摂食嚥下障害に対するチーム医療について説明できる。 			

平成 26～28 年度入学者用

<p>【教科書・リザーブドブック】 向井美恵 他著 『摂食・嚥下障害ベストナーシング』 学研, 2010 年. ¥2,592 (税込) その他、プリントを配布する。</p>									
<p>【参考書】 倉智雅子 (編集) 『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』 医歯薬出版, 2013 年. ¥4,752 (税込) 山田好秋 『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第 2 版』 医歯薬出版, 2013 年. ¥4,536 (税込)</p>									
<p>【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則規定の GPA 制度に従う。 8 回の講義終了後に記述式試験を実施する。試験 80%、授業中の態度や課題の達成度 20% の割合で総合的に評価を行う。</p>									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	0	0	0	0	0	20	100 点
評価指標	取り込む力・知識	70	0	0	0	0	0	0	70 点
	思考・推論・創造の力	10	0	0	0	0	0	0	10 点
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0 点
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0 点
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	20	20 点
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法			学修課題(予習・復習)		時間(分)		
1	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。	講義			(復習) 学修した内容の整理		50 分		
2	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能	講義			(予習) 口腔・咽頭領域の解剖・生理についての復習		50 分		
3	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構	講義			(復習) 学修した内容の整理		50 分		
4	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構	講義			(復習) 学修した内容の整理		50 分		
5	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類	講義			(予習) 教科書 p14~p17 (復習) 学修した内容の整理		20 分 50 分		
6	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下	講義			(予習) 教科書 p17~p25 (復習) 学修した内容の整理		20 分 50 分		
7	摂食・嚥下機能の検査・評価	講義			(予習) 教科書 p28~p47		20 分		

平成 26～28 年度入学者用

	摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査 スクリーニング・検査 非 VF 系嚥下機能評価		(復習) 学修した内容の整理	50分
8	摂食・嚥下リハビリテーション (訓練・治療) 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て 間接訓練、直接訓練	講義	(予習) 教科書 p62~p72 (復習) 学修した内容の整理	20分 50分

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。